

# 目 次

<b>第 1 章</b>	<b>リーマンとは誰であり何をした人なのか</b>	<b>1</b>
1.1	その生涯の素描と当時の状況	1
1.2	後世への影響	6
<b>第 2 章</b>	<b>西洋数学の「19 世紀革命」</b>	<b>11</b>
2.1	西洋数学史における四つのエポック	11
2.1.1	西洋数学史	11
2.1.2	西洋数学の源流	13
2.1.3	12 世紀ルネッサンス	16
2.1.4	17 世紀：西洋数学の本格的始動	18
2.2	西洋数学の 19 世紀革命	21
2.2.1	「量による数学」から「概念による数学」へ	21
2.2.2	存在論的革命	27
2.2.3	直観的モデルと集合論	31
2.2.4	新しい「物自体」	35
2.2.5	19 世紀革命と「数学の墮落」	39
<b>第 3 章</b>	<b>リーマンの関数概念</b>	<b>43</b>
3.1	リーマン以前の関数概念	43
3.1.1	現代的な関数概念	43
3.1.2	初期の関数概念の歴史的推移	46
3.2	リーマン関数論の源泉	50
3.2.1	代数関数の積分	50
3.2.2	陰関数定理と局所表示	52

3.2.3	アイデアの源泉	54
3.3	リーマンの複素関数論	58
3.3.1	関数に対する幾何学的視点	58
3.3.2	解析性	61
3.3.3	大域性と定性性	63
3.3.4	リーマン面	66
<b>第4章</b>	<b>リーマンの空間概念</b>	<b>76</b>
4.1	〈面〉から「多様体」へ	76
4.1.1	リーマン面受容への道	76
4.1.2	基礎付けの問題	79
4.1.3	多様体概念への道	84
4.2	教授資格取得講演	88
4.2.1	「幾何学の基礎をなす仮説について」	88
4.2.2	序文「研究のプラン」	89
4.2.3	多様体の概念	94
4.2.4	計量規定の外在性	98
<b>第5章</b>	<b>多様体とはなにか</b>	<b>103</b>
5.1	多様体論の系譜	103
5.1.1	位置解析と多様体	103
5.1.2	ライプニッツの空間論	107
5.1.3	純粹関係形式としての多様体	109
5.2	多様体論の起源	111
5.2.1	ガウスからの影響	112
5.2.2	ヘルバルトからの影響	119
<b>第6章</b>	<b>リーマンから現代数学へ</b>	<b>133</b>
6.1	集合論への道	134
6.1.1	対象観における転換	134

6.1.2	集合論への道程	137
6.2	数学的経験論	141
6.2.1	幾何学における仮説性	141
6.2.2	物質と空間	143
<b>第7章</b>	<b>建築学的数学と実在論</b>	<b>151</b>
7.1	多様体における抽象と具体	151
7.1.1	新しい実在論	151
7.1.2	パースペクティブと普遍存在	155
7.1.3	具体的普遍者	158
7.1.4	具体と抽象	163
7.2	結 論	167
7.2.1	時間の中の多様体	167
7.2.2	建築学的数学と経験論	171
	<b>参考文献</b>	<b>175</b>
	<b>事項索引</b>	<b>181</b>
	<b>人物索引</b>	<b>185</b>